

三河郷友会会報

三河郷友会OB会

三河郷友会東京寄宿舎の創立

理事長 中村 民雄

渥美郡		六	計	貳拾四名
北設楽郡	〇	八名郡	二	南設楽郡
額田郡	一	西加茂郡	〇	東加茂郡
寶飯郡	二	碧海郡	四	幡豆郡
郡名	人員	郡名	人員	郡名
人員	郡名	人員	郡名	人員

三河郷友会東京支部寄宿學生人員

一 東京及横濱ニ在留スル三河人相謀リ三河郷友会東京支部ヲ設置シタリ其會員人名及出金額左ノ通り右出金額ノ内各金四圓ハ本部即チ三河郷友会ニ出金セシ一時金ナリ

二 岡崎舊藩主本多子爵邸東京市本郷區森川町一番地ノ家屋壹棟ヲ本會寄宿舎ニ充用ノ爲メ拂下ケラ交渉ス(本多家ノ評議員及家扶ハ三河出身者ナリ殊ニ支部幹事小柳津君尤モ尽力セラル)其家屋時價ヲ以テ賣却スルトキハ金參千余圓ヲ以テ拂下ケ希望者アルニモ不拘本會へ金壹千五百圓ノ評價額ヲ以テ拂下ラル依テ僅少ナル模様替ヲ加ヘ寄宿舎ヲ開始セリ其家屋内室數拾七間アリ學生參拾名ヲ收容スルニ足ル

三 東京支部ニ於テハ其事業トシテ本多子爵家屋本郷區森川町一番地ニ寄宿舎ヲ設ケ三河出身ノ學生ヲ收容シ居レリ其郡別及人員左ノ如シ



三河郷友会東京寄宿舎（現・三河郷友会学生会館）は、隣の愛知社（現・愛知県育英会）に遅れること20年、本郷区森川町（現・東大赤門前）に7名の舎生を受け入れたのが創立のはじまりで、明治33年（1900）12月のことでした。したがって、再来年は創立120周年を迎えますので、記念事業として男子館の外装工事を予定しています。その折には、120周年記念事業としてのご支援・ご援助をよろしくお願いします。

さて、三河郷友会という組織は、明治18年（1885）5月10日に豊橋出身・鋤柄鍔治氏の呼びかけで発足した親睦会がはじまりです。その後、旧制中学校の設置に尽力しますが、どこに設置するか（豊橋と岡崎）で主導権争いを起しながらも、明治28年（1895）4月18日には町立豊橋尋常中学時習館（明治33年3月8日、県立に移管）、明治29年（1896）2月6日には愛知県第二尋常中学校（現・岡崎高等学校）の設置をみることとなりました。学校設置としては時習館が10ヶ月ほどはやく、ナンバースクールとしては岡崎が旭丘に次ぐ愛知二中として発足しました。旧制中学校の設立では多少のしこりを残しましたが、上京学生の受入れ先の寄宿舎設置については、会長に岡崎出身の土屋光春少将（のち大将、男爵）を迎えたことで急速に話しが進み、本郷区森川町の旧本多邸の一棟を購入することで決着しました。それが明治33年（1900）12月10日のことで、現在の公益財団法人三河郷友会学生会館の創立日に

なります。

ところで、本郷区森川町というのは東大赤門の向かい側のことで、現在は文京区本郷5丁目と言います。この本郷通り沿いは、文学・歴史書から社会科学書、植物や動物関係の理学書まで、老舗の古本屋が軒を揃えていたところでした。早稲田通り、神田神保町とともに都内の三大古本屋街でしたが、近年は代替わりとともに店を閉じる場所も多くなり、少し寂しい限りです。ちょっと私ごとで恐縮ですが、子どもの頃出身地の西尾市・岩瀬文庫によく足を運んでいた（実際は、マンガ本を見るかサルと遊ぶだけでしたが・・・）ことから、二十歳の時ライフワークに自分のスポーツ文庫（民和文庫と言います）を作ろうと一念発起し、週末になると古本市と三大古本屋街を訪ね歩く生活を40年ほど続けてきました。神田神保町から本郷界隈に回って三河寮に帰るというコースを毎月のように歩いていました。こうして集めた文庫は4年前、女子館を建てる時にすべて日本体育大学図書館に寄贈しました。なかなか文庫ごと受け入れてくれなくて苦労しましたが、無駄に終わることなく一括して引き受けてくれた日本体育大学には感謝しています。

また、その後入舎希望者が増加し、寄宿舎も老朽化が激しくなり、より広い土地を探していたところ久留米育英会寄宿舎が売りに出されていることを知りました。1年余りに及ぶ交渉の結果、明治41年（1908）10月4日、本郷区森川町から小石川区大塚窪町（現在地、文京区小石川5丁目）へ引っ越してきました。敷地は920坪、建物300坪、柔・剣道場15坪を併設したりっぱな寄宿舎をそっくりそのまま譲り受けることができました。この土地は、戦後の区画整理事業に伴い約300坪が換地処分され、現在では620坪ほどになってしまいましたが、育英事業の拠点（学生会館）として多くの先人の助力により受け継がれています。換地処分された土地は、現在の女子学生会館西側、前川邸との間のパーキングがそれにあたります。古いOBがよく言う、「昔、この辺りにテニスコートがあった。」というのは、かさ上げされたこのパーキングのことです。

戦時中の昭和20年（1945）5月25日には、小石川一帯を襲ったB29の大空襲によって隣の愛知社（現・愛知県育英会）は全焼し、焼け出された舎生が一時三河郷友会に仮住まいしていたことがあります。しかし、翌年には愛知社の舎生は世田谷区上北沢の仮設寄宿舎に移っていきました。焼夷弾が落ちてくる中、消火活動に奮闘して焼けずに残った三河郷友会寄宿舎でしたが、昭和23年（1948）1月4日の漏電により全棟が焼失し、わずかにピンポン室となっていた大広間と舎監室（現在の駐車場北側にありました）を残すのみとなりました。空襲による焼失は免れたが、チョットした気の緩みか漏電により舎生の教科書や所持品すべてが灰となってしまいました。焼け出された舎生は、どこか別の下宿へ移るか、知り合いの家などへ手分けして移り住むことになりました。行くところがなく残った人は舎監室の二階を間借りし、ピンポン室を間仕切りして急場を凌ぐような有様でした。

そうした戦後の住宅難の時代に手を差し伸べて下さったのが、北設楽郡在住の熊谷皓平氏と清川泰造氏でした。両氏のご自身の山から切り出した材木を無償提供して下さり、そのおかげで昭和27年（1952）4月、20名収容の木造二階建て寄宿舎が完成し、新学期に間に合わせることができました。この時の落成式には、三河選出の代議士や多くの関係者が出席する中で盛大に行われたようです。

しかしそれでも、木造二階建て20名しか収容できません。相部屋として使ったり、旧ピンポン室を大部屋として10人近く収容したとしても、昭和30年代の急増する上京学生を収容することができず、入舎試験が非常に厳しい状況が続きました。そこに持ち上がったのが、文部省・愛知県の補助金による「1県1県人寮」の建築構想です。この時の構想と愛知県育英会との関係については、次回ご報告させていただきます。

平成 30 年度会費納入者一覧（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 10 日）

白井 孝一	3,000 (普)	川寄 直輝	3,000 (普)	柴田 憲広	3,000 (普)
上原 智史	5,000 (特)	後藤 彰彦	28,000 (普特改 1)	河崎 吉廣	3,000 (普)
山本 淳	3,000 (普)	東 理恵	3,000 (普)	村田 寿	3,000 (普)
稲垣 光治	3,000 (普)	米田 吉孝	3,000 (普)	片岡 高文	23,000 (普改 1)
加藤 康雄	3,000 (普)	横山 泰久	5,000 (特)	岩佐 正輝	3,000 (普)
山本 智永	23,000 (普改 1)	州崎 りこ	3,000 (普)	大溪 花音	3,000 (普)
杉浦 嘉久	8,000 (普特)	青木 一正	3,000 (普)	磯村 真人	3,000 (普)
中川 貴央	3,000 (普)	紅林 淳	8,000 (普)	浅田 信二	3,000 (普)
神谷 潔	3,000 (普)	朝日奈邦博	3,000 (普)	村松 誠	3,000 (普)
藤澤 孝好	3,000 (普)	板垣 仁志	3,000 (普)	石川 邦雄	3,000 (普)
築山 哲也	3,000 (普)	大沼 敏行	23,000 (普改 1)	浅井 和彦	3,000 (普)
杉浦 淳雄	23,000 (普改 1)	外山 康生	8,000 (普特)	牧野 成憲	3,000 (普)
長濱 隆	3,000 (普)	小原 好雄	3,000 (普)	杉山 浩一	3,000 (普)
中村 民雄	48,000 (普特改 2)	鳥居 延行	28,000 (普特改 1)	松井 敏夫	3,000 (普)
古澤 龍平	3,000 (普)	杉山 晃浩	8,000 (普特)	紀岡 義博	3,000 (普)
尾崎 良康	3,000 (普)	加藤 定彦	3,000 (普)	谷川 憲三	8,000 (普特)
梅村 耕一	3,000 (普)	太田 雅人	28,000 (普特改 1)	鈴木 章悦	3,000 (普)
川澄 渚	3,000 (普)	伊藤 学	3,000 (普)	兼子 聡	3,000 (普)
味岡 秀樹	28,000 (普特改 1)	浅井 卓二	3,000 (普)	高原 雅美	8,000 (普特)
大竹 克紀	10,500 (普百)	尾関 香織	3,000 (普)	芦沢 次郎	3,000 (普)
小澤 洋介	23,000 (普改 1)	荒牧 功	3,000 (普)	笠田 優奈	5,000 (特)
安川 彰吉	3,000 (普)	大塚 一	23,000 (普改 1)	渡邊 光	20,000 (改 1)
片山 到	3,000 (普)	牧原 安孝	10,000 (特 2)	井上 允彦	5,000 (特)
大谷 重信	5,000 (特)	工藤 圭章	3,000 (普)	山本 親	25,000 (特改 1)
大竹 有二	3,000 (普)	鈴木 義久	3,000 (普)	鈴木 一元	3,000 (普)
平手悠紀子	3,000 (普)	眞弓 隆浩	3,000 (普)	田鎖 智恵	3,000 (普)
鬼頭 誠	8,000 (普特)	山本 幹雄	10,000 (特 2)	中島 樹志	8,000 (普特)
佐藤 公彦	28,000 (普特改 1)	金子蒼一郎	5,000 (特)	永井 寛	3,000 (普)
村田 承子	3,000 (普)	兵藤 雄之	8,000 (普特)	山崎 宣典	28,000 (普特改 1)
勝部 敦史	3,000 (普)	藤井 和義	5,000 (特)	堀内 康平	3,000 (普)
佐藤 龍哉	20,000 (改 1)	山田 涉	8,000 (普特)	磯村 真人	5,000 (特)
増村 清人	28,000 (普特改 1)	磯谷 勝広	3,000 (普)	白井 孝一	3,000 (普)
伊藤 明義	8,000 (普特)	岩月 一詞	3,000 (普)	中根 守久	3,000 (普)
小川 源八	3,000 (普)	内田 肅	3,000 (普)	高山 潤一	3,000 (普)
近藤 啓勝	3,000 (普)	落合 輝	3,000 (普)	柴田 裕	5,000 (特)
神谷 寿興	3,000 (普)	田淵 学	23,000 (普改 1)	服部 具明	3,000 (普)
熊谷 韶男	3,000 (普)	早川 勝博	3,000 (普)	山崎 照晃	20,000 (改 1)
徳倉 正晴	108,000 (普特改 5)	都築 幸夫	3,000 (普)	藤野 宏之	5,000 (特)

渡辺 乃康	3,000 (普)	福井 康光	48,000 (普特改2)	織田 航	23,000 (普改1)
縣 誠司	3,000 (普)	加藤 圭悟	3,000 (普)	鈴木 基秀	3,000 (普)
竹内 義人	5,000 (特)	山田 真己	3,000 (普)	清水 幹良	28,000 (普特改1)
小笠原昇一	5,000 (特)	仁枝 洋昭	3,000 (普)	吉田実可子	3,000 (普)
深津 繁人	3,000 (普)	生田 直樹	3,000 (普)	尾崎 雅揮	3,000 (普)
竹内 精司	5,000 (特)	小野寺雅史	30,500 (普百改1)	筒井健太郎	3,000 (普)
夏目 俊信	28,000 (普特改1)	川出 巖郎	3,000 (普)	太田 浩二	3,000 (普)
大西 伸一	3,000 (普)	小笠原昇一	10,000 (特2)	榊原 琢也	3,000 (普)
寺嶋 隆	25,000 (特改1)	榊原 潤	3,000 (普)	青木 祥悟	23,000 (普改1)
鈴木伊能勢	5,000 (特)	川崎 隆治	5,000 (特)	小嶋 邦昭	5,000 (特)
石川吉之助	3,000 (普)	浅井 卓二	3,000 (普)		

平成 30 年度会費納入のお願い

三河郷友会OB会会則にもとづき、平成 30 年度の会費をご納入下さいますようお願いいたします。
 なお、ご入金は郵便振替（00150-8-27434 三河郷友会OB会）でお願いいたします。

普通会費 3,000円

特別会費（1口） 5,000円

男子寮改築積立金（1口） 20,000円

*（公益財団法人三河郷友会への寄付金として計上します。）

創立百年史（残部僅少） 7,500円

*なお、特別会費等の繰越金についても金額が大きくなった場合、公益財団法人三河郷友会へ寄付します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜あ と が き＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

前号から、『公益財団法人 三河郷友会会報』として館生および保護者の皆さまへも配布させていただいております。また、ホームページも刷新しましたので併せてご覧いただき、末永いご支援をお願いします。

なお現在、男子館の耐震補強および風呂改修工事が行われています。それにしても9月6日に北海道胆振地方で震度7の地震が発生し、工事の進捗状況を見ながら東京で起こらなければ良いかとヒヤヒヤしながらの毎日です。館生および保護者の皆様にはあと2カ月ですのでお待ちください。

(理事長 中村民雄)

OB会事務局

〒112-0002

東京都文京区小石川 5-19-37

公益財団法人 三河郷友会内

info@mikawagoyukai.net

<http://www.mikawagoyukai.net>

TEL 03-3946-0342（館長：酒井）